

## きたのは突然だった

冷たい風が吹いて  
きたのは突然だった  
夏があっというまに  
僕の目の前から  
楽しかった思い出が

この夏は戻ってこない  
見上げた向こうに

特別な毎日が目まぐるしく過ぎて  
暑さに疲れてもいろんな刺激の中  
忘れられない日々よ

思った以上喜びを感じた矢先に

白いシャツが眩しかった光の中で  
思わず目を閉じたあの時に  
まぶたに描かれたアツい模様を  
今では見ることでできなくて

冷たい風が吹いて  
きたのは突然だった  
別れがあっというまに  
僕の目の前から  
楽しかった思い出が

この時間短かったため息の向こうに

特別な毎日が目まぐるしく過ぎて  
気ぜわしく過ごしても  
いろんな刺激の中  
忘れられない日々よ

めぐり逢った喜びを感じた矢先に

白いシャツが眩しかった光の中で  
思わず目を閉じたあの時に  
まぶたに描かれたアツい模様を  
今では見ることでできなくて

## 秋になって

秋になって雨も上がって  
涼しくなった 風も吹いてきた

ふとしたはずみ起こる感情  
秋の心と書いた「愁（うれい）」が

さみしい気持ちと物悲しい気持ちが  
何でもない僕でも詩人にさせる

今心の底に流れて消えてゆく  
思いを捕まえようとしても  
二、三度音をたてて  
引いてく波のように  
次第に小さくなってゆく

秋になって空も高く  
薄くなった 雲を見つめる

ふとした時になんとか寂しい  
気持ちになって思いにふける

何かを感じてセンチになる気持ちが  
何でもない僕でも詩人にさせる

今心の底に流れて消えてゆく  
思いを捕まえたところで  
言葉にした後は  
なんだか違うニュアンス  
次第に変わってゆく

## 天使の梯子

降りて来た天使たち  
光のカーテンから  
曇り空突然きれて光芒広がる

偶然とはいえども見えた時は  
何か良いこと起きる予感

これまでのことは全て  
正しかったと言われてる  
迷うことなく前向きに  
躍動してゆけばいい

太陽は雲に隠れ直接見えなくても  
存在がはっきりわかる  
向かう車窓（まど）の向こう

空が織りなす壮大なアート  
時が許す限り眺めて

天使の梯子が見れたら  
きっと幸せになれる  
いくつかの運が重なり  
いつでも見れるわけでない

これまでのことは全て  
正しかったと言われてる  
迷うことなく前向きに  
躍動してゆけばいい

## うごめく光

歴史ある灯台に上り詰めて海を見た  
飛ばされそうな帽子押さえ  
見下ろす波うごめく光

コンクリートの階段  
まわりながら登って  
降りる人とすれ違い  
最後の梯子まで来た  
背中をぶつけそうな  
穴をくぐったところで  
最上階スラブから  
眩しい外に出られた

遙かに見える遠くまで  
広がる大海原に  
流れる波の大きさにも  
圧倒されそうになる

下に降りて見上げれば  
綺麗な白空に映える  
灯台守に守られて  
波のように白く光る

無料駐車場からサンロードを渡って  
海岸につながる広い階段降りて  
波食台地の隙間に歩き回る小ガ二が  
波が打ち寄せるたびに  
隠れて見えなくなる

目の前しぶきを感じて  
広がる大海原に  
打ち寄せる波の音にも  
圧倒されそうになる

東みれば日本一の山が見える御前崎  
空の中に頂が  
浮かぶように白く見える

## 一人になりたくて

ああ一人になりたくて  
夕暮れの街から海へ続く道を  
何も持たずにただ歩くだけで  
気づいた時最後の道を渡っていた

すこしずつ冷たくなって  
腕にかけてた上着広げて  
両手を伸ばして袖に通す

薄暗くなった砂浜降りて  
波打ち際からすこし離れたところ  
西の空がまだ明るく  
左の耳に感じる波のざわめき

すこしずつ人がいなくなり  
一人二人と帰ってゆく中で  
寂しくなってまた人恋しくなる

## 黄色い田んぼ

秋の田の刈穂のいおのとまをあらみ  
夜露濡れるソデを悲しむのでなく  
夜を静かに黙想するような静寂

大事な稲刈りを明日に控えて  
泊まり番する昔の人のように  
辛いばかりでなく喜びもあったろう

秋の夜 清々しさが  
心待ちにつながる時

黄色い田んぼ日差しを受けて輝き  
黄色でなくてまさに黄金色になり  
その風景は壮大なひとときになる

すこし曇って透明な風が吹いて  
トンボの羽時々きらりと輝く  
曇った時穏やかに明るいじゅうたん

秋の風 透明さが  
心待ちにつながる時

## また動き始める

どんなにため息出したことだろう  
立ち止まり振り返り  
動きも止まる  
疲れた心に体もこわばり  
自分らしくいられない  
無理がたたり

すこし休まると気を取り直して  
自分の心に気づきを感じて

どうでもいいこと考えてしまい  
立ち止まっても仕方ない  
また動き始める  
演じてばかりが疲れる原因  
そんなことするよりも  
素直でありたい

時には何もかも全て消去して  
新たな生活もいいかもしれない